

細野大臣が、「退職技術者の技術、能力を生かす体制を作りたい」と答弁

2011年7月26日 参議院内閣委員会で牧山ひろえ議員の質問に答えて

参議院内閣委員会での質疑

2011年7月26日に開催された参議院内閣委員会で、牧山ひろえ議員が、福島原発の事故収束作業の進捗状況について、細野豪志原発事故担当大臣に質問を行いました。

質問時間は約15分。その中で、牧山議員は、「事故収束作業は、一民間企業である東京電力に任せるとは、国家プロジェクトとして推進する必要があるのではないか」「作業人員の放射線管理なども、国家が責任を持って行う必要がある」「退職技術者などが福島原発の収束作業に参加する意志を表明しているが、そうした人材を活用するつもりがあるかどうか」などについて質問を行いました。その質問＝答弁の概略は次のとおり。

国家として携わる体制を整備しつつある

牧山議員

福島原発事故は、日本だけでなく世界中の人々の命がかかっており、国際問題にも発展しかねない問題。こうした問題を東京電力一社に任せるとは、国が主体となって取り組む体制が必要だと思うが、それについてはどうか。

細野大臣

私もまったく同じ考えで、今回の事故を東京電力一社で解決しようとは思っていない。そういう思いもあって、ロードマップの第一ステップから第二ステップに移行する段階で、ロードマップを東京電力が発表するのではなく、政府も入った統合対策室で新たなロードマップを発表した。具体的な作業についても、国土交通省の技官が現地入りして政府として関与するという体制になっている。徐々にではあるが、東電と政府との共同作業という体制になってきていることをご報告申し上げたい。

作業員の放射線管理などについて

牧山議員

いま、福島原発には、全国から事故収束のための応援作業員がきているが、被曝線量が累計で100ミリシーベルトを超えると、その後、5年間は作業ができなくなって、他の原発の運転にまで支障を来すことになる。全国的な作業員の被曝管理も、電力会社だけでなく、国家管理にすべきだと思うがどうか。

細野大臣

基本的な認識としては、私もまったく同じ意見を持っているが、これまで人員の確保は企業同士の関係があって回ってきている事情があって、そこに政府が関与するのは、非常に難しい分野だと思う。そんな中で、放射線管理については、東京電力およびその関連会社は管理が行き届くようになっているが、建設会社が関与するようになって、その管理については、まだずいぶん課題があると感じている。そこで、今回のロードマップ改訂に際しては、これまで民間がやっていた放射線管理の責任を原子力保安院にして、徐々に政府の責任としてやっていくという体制を整備しつつある。このようにして、国の関与を強めていきたいと考えている。

退職技術者の方々が加わる体制づくりを

牧山議員

長期的な人材確保という面で、自ら志願している退職技術者を作業員に加えることを検討すべきだと思うがどうか。

細野大臣

退職技術者の方々については、私も直接お会いして、その意気に痛く感銘している。すでに何名かの方には現場にも行ってもらったが、今後、そうした方々の技術、能力と現場のニーズが一致すれば、行っていただく体制をぜひ作りたいたいと思っている。ただ、一点だけ気になるのは、現場は全面マスクで高温という、一定の年齢以上の方には過酷な環境。そうした方々が体調を崩されないように、細心の注意を払いながら見極めたいと思っている。



福島原発行動隊 第一回 大阪会議開催

2011年7月29日 山田理事長も出席して35人で今後の方向を協議

関西地区で初めての「福島原発行動隊」の大阪会議が開催されました。当日は、理事長の山田恭暉理事長も出席して、35名の関西在住の方々による、以下のような内容討議が行われました。

(1)「福島原発事故収束作業への退役技能者・技術者の参加に関する提案(案)」についての意見、提案、質問など。

(2) 関西での行動隊の活動をどのようにしていくか、どんな可能性があるか。

討議の結果、中川吉基さんをまとめ役として、「福島原発行動隊 大阪支部(仮称)」ができることになりました。今後、大阪支部では、東京の本部と連携してどのような活動を展開するか、具体的な検討が行われることになっています。



第7回院内集会を開催

2011年7月28日 参議院議員会館

7月28日、7回目となる「退役技術者による福島原発暴発阻止活動について」院内集会が開催されました。参加者数約150人。

当日は、福島原発行動隊から提案された「福島原発事故収束作業への退役技能者・技術者の参加に関する提案(案)」について、質疑応答、討論が行われました。



最近のニュースから

小出裕章著「原発はいらない」

7月15日発行の小出裕章著「原発はいらない」(幻冬舎ルネサンス新書:880円)に福島原発行動隊が取り上げられています。

「ついに立ち上がった技術者 OB たち」として福島原発行動隊を取り上げ、小出氏本人もその一員として記述されています。

図書新聞 2011年7月9日号に掲載

「特別インタビュー 福島原発行動隊呼びかけ人に聞く」として山田代表などへのインタビューが掲載されています。

リード文より:東日本大震災の中で起こった福島原発事故。メルトダウンが起こり、深刻な放射能放出が拡大し続けている。それに対して、60歳以上の退役者が高度に放射能汚染された環境下で、10年単位の安定した冷却装置を設置・保守・運転することを謳った「福島原発暴発阻止行動プロジェクト」が呼びかけられた(その後「福島原発行動隊」と呼称)。呼びかけの中心になっている山田恭暉氏(72)に話をお聞きした。パートナーの増淵真帆(42)さんに同席していただいた。(編集部)

7月25日 行動隊員 457人/賛同・応援者 1,426人、寄付 7,396,796円